社会思想の生い立ちと将来像*（Ⅲ）

大阪大学経済学部　内　海　洋　一**

第10章　マルクス主義のプロレタリア独裁論

マルクスは「ゴータ綱領批判」その他の著作で革命を行うためには，プロレタリアの独裁が必要であると言っている．議会主義にはよらず，少数精鋭の選ばれた人間が国家権力を奪取して，プロレタリアの独裁を行わなければならないというのである．その原則にのっとって，ロシアにおいてプロレタリアの独裁が，レーニン，スターリン，フルシチョフなどによって行われてきた．しかし，1917年のロシア革命当時，ロシアには工場労働者が全有業人口の1割にも達しなかった．あとは農民や自営業者ばかりだったのである．しかも，人口の大部分が文盲であった．そういう条件のもとでプロレタリア独裁が行われたのだが，それは結局，プロレタリアの独裁であるよりも，むしろプロレタリアおよび農民に対する独裁となった．マルクスの学説や予言が間違っていたのみならず，そのような独裁制を主張した点にも，われわれの是認し得ないところがある．人々はスターリンやヒットラーの独裁については，非常に苦しい経験を持っているはずである．読者諸君の中で誰が独裁を好まれるであろうか．ソ連では，30年も40年も独裁が続き，その間に無数の人々が正式の裁判もせずに死刑に処せられたのである．

第11章　ドイツにおけるマルクス主義の運命

このようにマルクスの理論は間違っており，予言もあたっていなので，先進国においては，もはや勤労者政党もマルクス主義をほぼ卒業している．ことに，ドイツはマルクスの生まれた国だらマルクス主義が非常に盛んであった．社会運動のもう一人の巨頭であるラッサールの死後は，ドイツの社会主義はもっぱら，マルクス主義を中心にして進んだ．そして，ドイツの社会民主党がマルクス主義を守っていたがために，かえってヒットラーを出現させるということになってしまったのである．

なぜかというと，マルクス主義の立場からいえば，「おおむね国家というものは，ブルジョアの搾取機関である．労働者には，国家などというものは必要ではない．世界の労働者は兄弟であって祖国はない．国民感情や愛国心も資本家階級のデマゴギーの産物である．」このようにマルクスは言った．また，マルクス主義によれば，中間階級は次々と没落していって，ますます富裕になる少数のブルジョアと，ますま数多くなり，かつ貧しくなるプロレタリアとに別れる．だから，中間階級のことは考えなくてもよい．もっぱら，プロレタリアのことを考えればよいと説いた．ところが，ドイツはロシアやフランスにはさまれ，その攻撃もたびたび受けているので，労働者も国家を守ろうという強い気持を持っている．われわれ日本人も国民感情は持っている．

戦争にはいやだけれど，例えば，日本の選手がオリンピックで勝ってくれれば喜ばしいし，また，湯川博士がノーベル賞をとってくれれば喜ぶ．そのような国民感情は持っているのである．このような国民感情は資本家の力で植え付けられたものではない．人種や言葉が同じで，生活圏を共同にしていると，当然にそのような国民感情が生ずるのである．労働者も国家を大切にしようという気持や国民感情を実際に持っているのである．

次に，マルクスは「資本主義が発展すれば，中間階級はしだいに無くなってしまうのだ」と言った．しかし，前述のように，マルクスの予言通りには中産階級は必ずしも減りはしなかったのである．ことに，農民はいつまで経っても自分で田を持って，自分で耕やしているという状態を続けた．大農業資本家が出現して，全ての農民はそれに庸われる農業労働者に成るという状態は現われなかった．住宅が都会中心に急速に建つと小売店ができ，医者やおでん屋や薬局やラジオ屋も増加した．このようにして，古い型の中間階級が案外に減らなかったのみではない．

次には，新中産階級，つまり，ホワイト・カラーまたはサラリーマン階級が現われて来た．しかも現場の労働者もサラリーマン化または中間階級化してきた．このようにして，新旧あわせての中間階級はかえって増加してきたのである．しかし，マルクス主義者は中間階級はや

---

* 一般社会人に対する教養のための講演速記に加筆したものである．

** 経済学部長，経済学博士

がて無くなるから，彼らのことは考えなくてもよいと言っていた．これは現実に合っていなかったのである．

国民感情や中間階級をマルクス主義が無視していたことが，ヒットラーという男の台頭を助長したのである．ヒットラーが，どれほどカリスマ的（魔術的）魅力を持っていてもこのようなマルクス主義の間違いが無ければ，あれほど力を拡張することは出来なかったであろう．政権も取れなかったであろう．

ヒットラーは，第1に，ドイツ社会民主党の棒持しているマルクス主義は国民感情を無視しているから，その間隙をつき国民感情に訴えようと考えて，ドイツ魂を非常に強調したのである．その点に多数の人々が惹かれていったのである．第2に，当時のドイツ社会民主党のマルクス主義に対抗して，ヒットラーは中間階級を非常に重視した．これもヒットラーの人気を高めた．このようにしてヒットラーが進出したのである．つまり，ドイツ社会民主党のマルクス主義信奉がヒットラーの政権獲得を可能にする結果になった．

そこで，戦中戦後からドイツの社会民主党は非常に反省して，1959年には，バート・ゴーデスベルクで大会を開き新綱領を定め，マルクス主義をはっきり清算したのである．このようにして，ようやくドイツの社会民主党に於いても，フエビアン社会主義，つまり，議会主義を通じて社会を改良していこうという考えが正式に軌道に乗った．実際にはドイツ社会民主党の内部でもエドユアルト・ベルンシユタインが既に前世紀末マルクス主義を修正しフエビアン社会主義に近いもの，あるいは，民主的社会主義に到着していた．しかし，当時はそれが認められずベルンシユタインは危うく除名されそうになった．彼は政治家をやめて，昔やったことのある銀行員になろうかと思案さえした，除名にはならなかたが彼の意見は永く容れられなかった．

半世紀経った今日，ようやくベルンシユタインは認められたのである．正しいもの竺結局認められる．ベルンシユタインはロンドン亡命時代にイギリスのフェビアン社会主義者と交際しているが，彼は前世紀末に於いて，民主的社会主義の一方の旗頭であったといえるであろう．ドイツ社会民主党のマルクス主義卒業と共に，ヨーロッパの有力な勤労者政党で，マルクス主義を掲げるものはほとんどなくなってきた．フランスやイタリーにいくらか残ってみるのである．

マルクス主義は過去のものとなり，後進国においてのみ大きな力を持っている．マルクス主義を卒業したドイツ社会民主党は，前の選挙で非常な勝利をおさめた．英国の労働党は最初から，マルクス主義を取り入れていなかった．マルクス主義の影響の大きかったオーストリアや北欧も大体マルクス主義を卒業している．福祉国家をとなえる北欧三国では1930年頃まではマルクス主義の影響は相当強かったようであるが，ノルウェーを最後にしてマルクス主義を完全に卒業した．そして勤労者は英国労働党式の考え方をするようになってきているのである．イタリア，フランスにいくらか文学的なマルクス主義が残っているが，大局的に言って，ヨーロッパ先進諸国ではマルクス主義は，全面的に衰退してきているのである．

第12章　イギリスのフェービアン社会主義

今日，先進諸国の勤労者の支持する思想の中心になっているのは，イギリス労働党の思想である．それについて簡単に述べると，19世紀末になり，イギリスにフェービアン社会主義が現れてきた．

フェービアン社会主義とは，どのような意味をもっているかといえば，昔，ローマにフェービウスという将軍がいた．このフェービウスという将軍はわが旧軍隊のように猪突猛進は決してしなかった．敵の手薄な所には要領よく進出して攻撃をした．しかし，形勢が悪くなると直ぐ退却した．そしてすきがあれば，また出て行くのである．そのようにして常に戦争に勝ったのである．そして，特にハンニバルという強い敵将を降し有名になった．

イギリスの，経験を重んずる社会主義者たちは，共産部落の建設や国民衡平労働交換所の設置やフランスの過激急進主義の暴動が失敗に終わったことをよく反省した．また，自由と民主主義は断じて守らなければならないと考えていた．そして，フェービウス将軍のように漸進主義で社会改革を行わなければならないと考えた．そこで，フェービウス将軍の名にあやかって，1884年にフェービアン協会という社会主義者の団体をつくったのである．このフェービアン社会主義者が英国労働組合会議——T.U.C.——と力を合せて，1906年にはイギリス労働党を結成したのである．そして，このイギリス労働党がフェービアン社会主義で一歩一歩改善を加えてきた．

フェービアン社会主義では，一挙に私有財産を撤廃したり，一挙に計画経済にするのがいいとは限らないと考えている．目的は，計画経済それ自体，財産の公有それ自体ではない．問題は，社会における上下の懸隔を縮めて，労働者の生活を保証することだ，これこそ，社会主義本来の理想である，と考えた．現代の社会制度のよい点を残し，それに手を加えて上下の差を縮め，社会保障を充実していくようになったわけである．今日では，ユリ篭から墓場までといわれるほどの社会保障が行われている．

今日，イギリスでも，北欧でも，なおたくさんの問題が残っている．けれども，イギリスにしても，北欧にしても（殊に北欧は社会民主党が20年以上政権に参加している），決して共産党のようないき方をしていない．現在の私有財産制度や市場経済（マーケット・エコノミイ）を残しながら，その上に国家が統制を加えて欠点を是正し，かつ社会保障制度を充実し，そのようにして労働者の生活をよくしていこうとしている．

日本も漸次そうなっていくであろう．そうなれば，保守主義と革新主義の距離も段々縮まっていくわけである．両極化は後進国ほど烈しい．先進国化すれば，保守的政党も社会政策や社会保障をやっていかなければならない，と考えるようになる．革新政党も，一挙に暴力革命をおこしても駄目だ，一歩一歩現在の社会に経済政策や社会保障政策を加えていくのがよい，という考えになる．だから，両方が非常に似たようなものになってくるわけである．英国では，昭和39年の秋に保守党と労働党の政権が変ったが，大した政治上の変化はないという所まできているというのである．

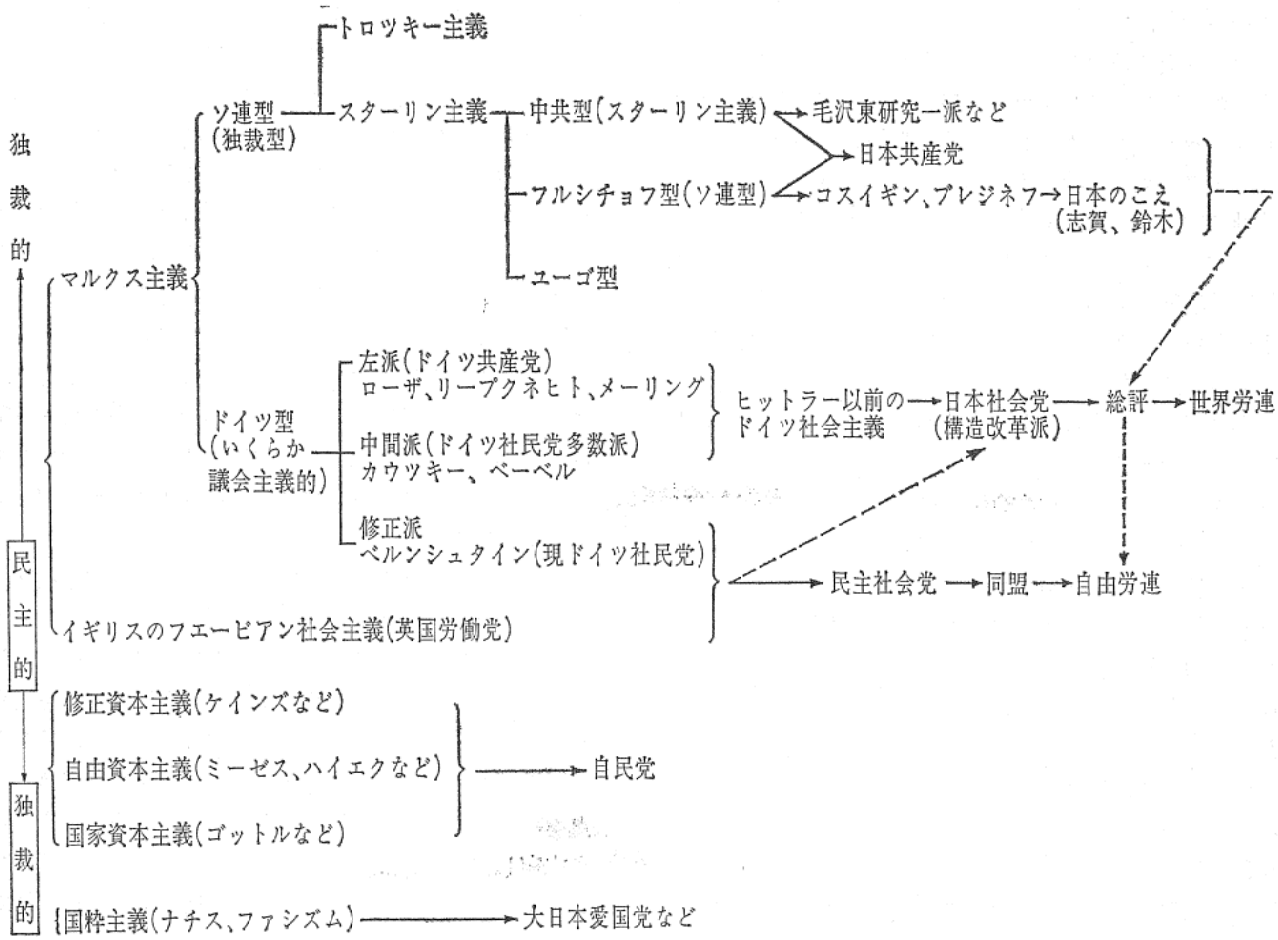
第13章　現代社会思想の系譜

別表を参照していただきたい．ここで，これまで述べた社会思想の現代における状態を概観しておこう．今日，世界で有力な社会主義思想は，マルクス主義とイギリスのフェービアン社会主義である．マルクス主義は，第一次大戦のころほぼ2勢力に分かれた．一方は，ソ連に移り，他方はドイツに残ったものである．

ソ連におけるマルクス主義は，マルクス主義の中に存在する独裁的側面を強化して行った．ソ連のマルクス主義は，レーニンがうけついで実践に移したもので，マルクス・レーニン主義と呼ばれる．レーニンの後，トロツキーとスターリンが出現した．トロツキーはロマンチストで世界革命によらなけば共産主義の実現は不可能であるとした．従って永続的革命の必要を主張した．しかし，トロツキーはスターリンに敗れ，メキシコに亡命したが，亡命先でスターリンの輩下により暗殺された．

一方，スターリンは現実主義者であり，一国社会主義の立場をとった．そして，ソ連で長期に渡り渡り独裁政権を握り，ソ連型社会主義を実現した．その間，強制労働や粛清等あくどい手段を使った．

スターリンの死後，情勢は変化し，共産主義も分裂して行った．スターリン時代の考え方をそのまま受け継いだのは中共で，ソ連はフルシチョフ型というべきものになって行った．フルシチョフは，スターリンを批判し，



いくらか自由な空気を取入れた．彼の罷免後，ブレジネフとコスイギンが政権を取ったが，大体フルシチョフ路線であり，再びスターリン的恐怖政治に帰らないようである．その右側に以前分裂したユーゴ型がある．このように3つのタイプになっている．日本共産党は，かってソ連一辺倒であった．しかしソ連と中国との一枚岩が崩れたとき，どちらにつくべきかとい問題が起った．

そして，昭和39年4月頃から中共支持を明瞭にしていった．そのためソ連支持の志賀義雄，鈴木市蔵を除名するということになった．除名された人々は，「日本の声」という雑誌を発刊し，この雑誌を中心に集ることになるわけである．39年秋に，更に，中野重治，神山茂夫等も除名された．これが世界の共産主義と日本の共産主義の関係である．ところで，ドイツに残ったマルクス主義は幾分議会主義的であった．ドイツはヨーロッパ先進国の一つで，自由や民主主義の味も知っていたためである．このドイツ・マルクス主義は，第一次大戦中に3派くらいに分裂することになった．

左派はローザ・ルクセンブルグ，カール・リープクネヒト，フランツ・メーリング等の人々がひきいたわけで，第一次大戦中に結局ドイツ共産党を形成した．日本でこの系統を受け継いだのが，一時期「社会党を強くする会」を牛耳っていた九州大学の向坂逸郎である．氏は第一次大戦後，ドイツに留学していてメーリングと親交があった．彼や大内兵衛等は労農派というグループを作っていたが，この労農派の人々は大体，ドイツ・マルクス主義の左派および中間派の系統に引いている．そして，このヒットラー以前のドイツマルクス主義の思想を受け継いだ労農派が一時日本社会党を理論を提供していたのである．概して，日本社会党員の6割ぐらいはドイツ共産党および中間派の系統を引いているといって差支えない．

ところが，ドイツ社会民主党の中に先にも述べた非常に賢明で大胆なエデュワルト・ベルンシュタインという人がいて，19世紀の末頃マルクス主義の修正を企てた．マルクスの理論によれば，労働者はますます貧しくなるというのにドイツの労働者の生活水準は少しずつ上っている．マルクス主義はで国家は労働者をしぼりあげる機械であるというのに，19世紀末頃からいろいろな形の社会政策が行われるようになって，マルクスの予言は，どうにもならない．ベルンシュタインは「社会主義の諸前提と社会民主党の任務」という本を書いてマルクス主義を批判した．その結果．彼の修正主義は英国労働党すなわち英国フェービアン社会主義の考え方と同じようなものになってしまった．この考え方が，現在ドイツ社会民主党の中心思想になっている．この系統を直接引いているのが，日本の民主社会党である．民社党だけでなく，社会党の構造改革派，ことに故河上丈太郎などは，マルクス主義者というよりも，むしろキリスト教的社会主義者であって，どちらかといえば英国社会主義の系統を強く受け継いでいた．このように，イギリスの社会主義およびベルンシュタイン社会主義，つまり民主的社会主義の系統が日本に影響をおよぼしているのである．

その右に保守主義がある．その中の左に資本主義を修正して維持しようとする立場がある．理論的には，イギリスのケインズによるもので，この考え方をもつのが松村謙三，石田博英，三木武夫などの保守党の進歩派の人々，つまり，ニュー・ライトである．彼らは，修正資本主義のいわばチャンピオンともいえるわけである．しかし，保守党のその他の人でも資本主義がそのままでいいという人はほとんどない．やはり資本主義に修正を加えて福祉国家にしなければならないということをいい出すようになってきている．その意味において資本主義と社会主義との間隔は日本でもやや縮まりつつあるといえる．

理論的に考えると，その右には，さらにまったく手放しの自由放任の資本主義というものもあるわけである．ミーゼス，ハイエクという自由主義の学者がまだ生存していて，ことにハイエクは，先日日本にも来たが，完全な形での自由資本主義が一番いいということを今日なお主張している．

さらに，その右には，現在ではきわめて無力になったが，国家資本主義——国家主義と資本主義の混合——というような思想を主張している人もいる．この3つの派の人々（修正資本主義，自由資本主義，国家資本主義）が集って自民党を形成していると考えてよいわけである．

さらにその右には，国粋社会主義とかナチスやファシズムのような考え方がある．戦後の日本では，これは非常に弱まっているが，まだ一部には存在している．最近では暴力団などが，大日本護国団とか，大日本愛国党とかいう右翼団体を結成して，自分達の暴力団の体裁をつくろっている．これらが最右翼である．このように日本の社会思想も世界の社会思想と相関連しながら，いろいろな分派に分かれているわけである．

最後に重要なことを一言述べると，右と左は下図のように，左翼がこちらにあって，その反対に右翼があるというように，最も遠く離れて対立しているものでばない．ヘーゲルは両極は一致するといったが，左翼からぐるっと廻って，またもとの近くにくるとそこに右翼があり，2つはならんで一部重なっているのである．両者は多分に似た面があるわけである．人間の性質からしても非常に狂言的な人々が，そういう両極に走るのであって，左右相一致するという面が多分にあるのである．別表でも

上にゆくほど独裁的になり，また下にいくほど独裁的になるということを示す矢印を図表の一番左端につけておいた．社会思想はまさにこのような性質をもっているのである．

第14章　最近における変化と将来への展望

1.　左の変容

さて，社会思想の歴史と現代社会思想の状想について述べてきたが，それらの社会思想はまた刻々と変化しつつある．歴史はひとときも休んでいないのである．

先ず左の方から見ると，ソ連においては，革命直後には，完全な計画経済で行くのだから，今に市場組織はなくなる，貨幣もいらなくなる，賃金も平等にしよう，と考えられた．また，宗教は「民衆の阿片」だから絶対禁止だ，ドストエフスキーのようなブルジョア文学は発禁にしよう，ジャズはブルジョア的堕落音楽だからこれも禁止だ，といったような政策がとられた．

しかし，すでに，スターリン時代においてさえもその通りには行かなかった．たとえば，賃金のごときも時がたつにつれて能率給的になってきた．1931年には，スターリンが，能率給の必要を強調した有名な演説を行なっている．今日では，ソ連の賃金構造とアメリカの賃金構造とは，大して違わないといわれている．バーグソンのような経済学者がそういう点をかなり明確に調べている．

ソ連でもアメリカの職務評価について非常に関心が高まり，そういうことが必要とされているようである．

貨幣がなくなりそうになったことは一度もない．むしろ，生産力が増大し，色々の品物について切符による配給制が撤廃されるとともに，ソ連における貨幣の働きはますます資本主義のそれに似たものとなってきた．

スターリンの死後，フルシチョフが政権を握ってからは，ソ連の自由主義の方向への変容はかなり目立つようになってきた．とにかく，戦争も終わり，ソ連国民も消費生活の向上を求めるようになった．ソ連の多くの兵隊たちは，ヨーロッパに攻め入り，日本人とも接触して，資本主義国の労働者が案外によい生活をしていることを知った．消費欲求を刺戟されたわけである．食うや食わずのときはそのようなゼイタクはいえないが多少とも経済的余裕がでてくると，人間は自由を求めるようになる．

フルシチョフはこれは応じて行かざるを得なくなった．それで，1時期，2千万も3千万もいた強制労働者を次第になくし，職業選択の自由の方向へ一歩踏み出した．また．消費財の生産にも重点を置くようになった．それから，言論や思想も少しずつ自由にしていった．例えば，先ほど述べたドストエフスキーの小説も40年ぶりに解禁にし，ソ連の文化的遺産としてかえって自慢するようになった．スターリンを批判した小説も幾つも出版を許された．ジャズも解禁になりソ連の若者の間に大流行している．これは行きすぎて政府が手をやいているほどである．教会にも，以前と較べるとずっと気楽に行けるようになった．

経済学の面においても，例の「経済学教科書」の絶対的窮乏化理論のところを大幅に訂正した．フルシチョフが訪米した時，「アメリカの労働者もなかなかよい暮しをしておるわい」などと窮乏化学説に反するようなことを平気で言った．また，アメリカの産業連関論の経済学者であるレオンチェフを2度にわたって招き，その教えを受けた．さらに数年程前に，ハリコフ大学のリーベルマン教授らが，ソ連でも生産性を向上させるためには利潤制をある形で導入しなければならぬという論文を書いたところ，フルシチョフは，それに同意し，試みることにした．スターリン時代にこのようなことをいおうものなら翌日には処刑を受け「蒸発」させられてしまったことであろう．

フルシチョフが失脚し，コスイギン首相，ブレジネフ第一書記が立ってからも，彼らは，フルシチョフ路線を受けついでいる．例えば，利潤制導入は行なうべきだといっている．また，ごく最近では，ソ連特有の遺伝学説であるルイセンコ学説は誤りであり，やはり従来のメンデル―モルガン説が正しいとされ，資本主義国と同じ遺伝学説に転向してきた．

どこまで自由主義化するかわからぬが，かなり自由主義の風が吹いてきていることは確かである．したがって，中共の幹部が，ソ連は資本主義化しつつあるなどと非難し，ソ連と中共の関係が悪化してきたのである．

中共は，現在，ソ連のスターリン時代を歩んでいる．しかし，その中共の毛沢東すら，先般「千年もすればマルクスもレーニンも馬鹿げたものになろう」などと，相当大胆なことをいった．それ以前には，マルクス主義は絶対不変の真理と考えられていたから，到底このようなことは言えなかったのである．

何れにせよ，共産主義国も，生産水準や教養程度が上るにつれ，少しづつ自由主義の方向に変りつつある．

このような左翼陣営の変化はわが国においても見られる．共産主義者にしても代々木（日本共産党本部）のい

うことには絶対服従というような教条主義はとらくなってきている．前述のごとく共産党は二つに分裂し，全学連のごときは7分8裂の様相を呈している．そして，ソ連にも中共にもないトロツキー派というものもでてきた．それだけ，権威主義，全体主義から脱し，共産主義者も合理的になり，自分で考えるようになったのである．また共産党はひところのような火炎ビン戦術やトラック部隊戦術などは用いず歌声運動などの戦術を用いている．

社会党は，前述のごとく，一昔前のドイツ・マルクス主義の影響を強くうけていたが，最近では，そのようなドイツ・マルクス主義の代表者である向坂氏の影響も小さくなった．そして，数年前から構造改革論―漸次社会構造の改革を目ざす議論―のごとき漸進主義的なことが言われている．しかも，河上氏や江田氏のような構造改革派の人々が最近に至るまで，社会党の主流をなしてきている．また，江田氏は，数年前に社会主義のビジョン（未来像）として，アメリカの平均的に高い生活水準，ソ連の徹底した社会保障，日本の平和憲法，イギリスの議会制民主主義をあげた．アメリカの生活水準が高いということは絶対的窮乏化理論の否定になる．イギリスの議会主義は，マルクス主義によると，ブルジョア議会主義のはずである．日本の新憲法は，私有財産制や象徴天皇制を認めている．このようなものを，社会主義のビジョンに入れるのだから大した変わりようである．

また，社会主義憲法の問題も生じた．社会党の一部過激派の人たちの「日本の現在の憲法に代わるべき社会主義憲法を作るべきだ」という社会党の新聞の記事は，社会党の大多数の人々から反対された．現在の憲法―私有財産や象徴天皇制を認めた―がよいというのだ．

それから，総評の方も変ってきている．例えば，生産性向上運動に絶対反対の立場から，それにある程度協力するように考え方が変ってきている．また，従来の共産主義系の世界労連一辺倒だったのが最近では，国際自由労連や IMF・JC にも関係を持とうとし始めている．更に，総評系の民間単組では，最近，マルクス経済学ではなく，近代経済学を勉強しよという気運が相当出てきている．近代経済学者が総評系の組合に講演を頼まれることがしだいに多くなってきている．

2. 右の変容

つぎに右を見てみよう．後進国の右翼独裁はしばらくおくが，代表的な自由資本主義だと見られているアメリカもすでに1933年のルーズベルト大統領のニュー・ディール政策以来随分変ってきている．

ニュー・ディール政策は，保守派の人々から社会主義であるとして非難されたほどの進歩的政策であるが，結局漸次押し進められた．そして，ワグナー法のような進歩的労働法もでき，労働運動は助長され，社会政策や社会保障も一層進んできた．その後，トゥルーマンもフェアー・ディールということを言い社会的公正を実現しようとしたし．また，ケネディは衆知の如く，ニュー・フロンティアという旗印をかかげ，黒人の地位の改良を初めとし，進歩的諸政策を行なった．ジョンソンも，貧乏退治ということをいい，貧困解消政策に対処している．

最近では，所得税や相続税の累進度も大いに進み，例えば，富豪が死亡すると80%も90%も相続税をとられる．故に，ハーバード大学教授でケネディ時代にインド大使をしたこともあるガルブレイスは「今日のアメリカは20%社会主義化している」といっている．

アメリカ以外のどの先進資本主義国をとっても同じことが言える．北欧諸国やイギリスは勿論のこと，ドイツやスイスやベルギーやフランスなどもアメリカ以上に社会主義化しているといえるだろう．50年前に死んだ人が生きかえったならば，資本主義の社会化的変容に驚くに違いない．

日本においてもそうである．自民党政府であるが，それなりに，社会政策や社会保障を進めてきている．昭和の初期と比較しても随分違ってきている．筆者の住んでいる須磨などには大きな邸宅や別荘が沢山あったが，今ではそれが会社の寮になったり，小さく分割されてサラリーマンの家が建ったりして，ほとんど姿を消した．2人も3人も下男や女中をおいていたような家も見かけなくなった．その反面，乞食などはめったにこなくなった．昔は毎日2人や3人の乞食や押売ができたものである．次第に平準化してきているのである．

最近自民党政府も，「高度福祉国家」というスローガンをかかげるようになった．自民党の今の政治がそのままでよいとは決して言えないが，とにかく，昔と較べると社会化政策を重視するようになってきたことは否定できない．

3. 長期間の見通し

以上のように眺めてくると，結局，左の陣営はしだいに右に寄ってきているし，右の陣営は次第に左に寄ってきている．50年先では，ソ連もアメリカもかなりよく似た社会体制をとることになると思われる．その社会体制は，「福祉国家的混合経済体制」であると言うことができるであろう．福祉国家というのは，今日のスェーデンやイギリスのように，民主主義を基礎にして社会政策や社会保障を徹底的に行なっている国家なのである．（イギリスやスェーデンでも完成しているわけではない．スェーデンのミュルダール教授が『福祉国家を越えて』という本でいっているように，さらに一層よくする必要がある．）混合経済というのは，市場経済に統制や計画を

加え，両者を混合した経済である．混合経済にもナチスドイツや戦時中の日本におけるような統制経済がある．それに区別するために，「福祉国家的混合経済体制」といっているのである．福祉国家を実現するためには，どうしても混合経済にならざるを得ない。そういうわけで両者が結びついたのが福祉国家的混合経済体制である．

後進国では，国民の教育や工業化を急速に押し進めるために，左や右の独裁主義が支配する傾向がある．しかし，次第に経済が発達し生活が向上すると民主主義化して，福祉国家の方向を目指すようになる．しかし，できる限り早く独裁をやめる方がよい．そのためには先進国が様々な援助をする必要がある．

以上，社会思想の歩みと現状について述べてきた．今日民主主義のわが国では，読者諸君がどの社会思想を抱き，どの政党を支持するかは全く自由である．どの社会思想がよいかということは学問的に全面的には決定することはできない．各人の立場や趣向の問題が入ってくるからである．ただ，だれもがよく勉強した上で，自分の考えを自分で決定することが必要である．このためこの論文が幾らかでも参考になれば幸いである．